



伊達崎小の人形を発見した
永野 泉さん

探していた人形を発見
この瞬間に立ち会えて幸せ

「青い目の人形」を研究している西村恭子さんとともに、残された人形の行方を追っていました。初めて見た時は、傷だらけの姿に少しぞっとしましたが、子どもたちに囲まれて、表情がパッと明るくなったように見えました。

ベッティーちゃんが約90年もの時を経て、桑折町の子どもたちに平和の大切さを伝える姿に感動しました。ギュリック博士から託された使命を果たせて、今とても幸せだと思います。



伊達崎小学校 6年
幕田 直汰朗くん

人形を守り抜いた人の思いを
後世に受け継いでいきたい

校長室に置かれていて、普段何気なく目にしていた人形。なぜ伊達崎小にあるか分からなかったけれど、授業を通してたくさんの出来事や人々の思いが背景にあることを知り、驚きました。国家や周りの人から責められるかもしれないのに、人形を壊さずに守り抜いた人は、本当にすごいと思います。今度は、私たちが先人の思いを受け継いで、ベッティーちゃんを後世に残すため、大切に守り続けていきたいです。



伊達崎小学校 校長
大木 修さん

人と人が信頼する大切さを
子どもたちに伝えたい

子どもたちは、「怖い」という印象もあった人形を、「大切にすべきものである」と素直に受け止めてくれました。教育者でもあるギュリック博士は「子どもには本来、偏見も差別もない」と、この「友情人形計画」を考えました。国と国が対立しかけた時、アメリカと日本の人々はどんな思いで子どもたちに人形を贈り合ったのか。人形に込められたメッセージを、子どもたちなりに理解してくれるといいなと思います。



5_人形をめぐる出来事に真剣なまなざしで
向き合う 6_西村さんもリモートで授業に
参加 7_「青い目の人形」のお礼に、福島
県が贈った答礼人形について話す大木校長



8_名前とパスポートを贈ってくれたギュリック3世に英語
でお礼の手紙を書きました 9_
「これからも守りたい」と
人形を大切に抱きかかえます



この日、リモートで授業に参加した、「青い目の人形」を研究している西村恭子さんは、子どもたちに語りかけます。「皆さんの言うとおり、優しい桑折町の人たちは、『敵国の物だから捨てよう』とはせず、ギュリック博士の思いに賛同し、人形を守ったのでしょ。隠してでも守ろうとした先人がいることを、どうか誇りに思ってください。それぞれの国の大切なものを尊重し、時間をかけて話し合えば、戦争は無くなり、平和な世界になると思います。先人が残してくれた宝物を、これからも大切にしてくれるとうれしいです。大人になっても、ベッティーちゃんから学んだことをずっと忘れないでくださいね」。「青い目の人形」に触れて育つ、伊達崎小学校の子どもたち。先人が残した宝物から、戦争の悲惨さや平和の大切さ、思いやりの心を学んでいます。

先人から受け継ぐ宝物

どもたちは次々に口にします。

福島県で18体目となる「青い目の人形」が発見された伊達崎小学校で、7月29日、5・6年生を対象に、人形のルーツを学ぶ、特別授業が行われました。「今日は、校長室に飾ってある、この人形について学びます」と子どもたちに語りかける、大木修校長。子どもたちは目を輝かせてうなずきます。

「この人形は、約90年前にアメリカから日本に贈られた、日米友好の証である『青い目の人形』です。箱に書かれた名前が消されていましたが、人形の贈り主であるギュリック博士の孫である3世夫妻から、改めて『ベッティー』と名付けてもらいました。戦時中、『敵国の象徴』として大量に処分された人形が、伊達崎小に残っていたのです。この人形は、誰が、どのような思いで守ったかは判明していません。答えが分からないからこそ、どうして桑折町に人形が残っていたのか、みんなにも考えてほしいのです。なぜ、人形は残ったと思いますか？」

このまちの先人たちが
優しい心で
守ったものだと思うから。
「ベッティーちゃん」は
これからも私たちの、宝物。